

終戦を告げられ65年 「神」昭和天皇が「降伏」を臣民に告げてから

マスコミは8月15日を終戦記念日として、特集記事や番組で戦争の悲惨さを伝えています。そして菅内閣は靖国神社へは参拝しないとも報道されています。しかし「終戦記念日」「靖国神社参拝はしない」は、戦争の悲惨さを言うだけでなく戦争を繰り返さないという意思表示の意味でなければなりません。

65年前の8月15日は、昭和天皇がラジオを通じて臣民（天皇制の下で国民は しんみん と称され、天皇の支配の対象となる人とされていた）に対して戦争終結＝日本が降伏することを告げた日です。この時天皇は、この世に人間の姿で現れた神として戦争の頂点にいました。その「神」が勝手に始めた戦争を、この時は勝手に止めると臣民に対して勝手に告げた（…臣民に告ぐ）のです。

組合員のみなさん ユニオン・国労組合員のみなさん

私たちの身近には、戦争を肯定する人はいないと思います。しかし世界では、未だに戦争状態が続いている国があります。日本には、米軍基地が歴然として存在しています。このような事実を抜きにして「終戦記念日」や「靖国神社参拝」を見てはいけません。私たち一人ひとりが世界から軍隊を、軍事基地を、戦争をなくすための取り組みをしていかなければいけません。

**日本から米軍は出て行け！ 米軍基地撤去！
憲法9条改悪反対！** と大きな声で訴えましょう。

私たちにとって 8月15日は
私たちは戦争を二度と繰り返さないという
意思を広めていくための 記念日 です